

公共事業継続箇所評価調査

(様式5)

評価確定日(令和 6年9月27日)

事業コード	R6-建-継-09	区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	通常砂防事業	部局課室名	建設部 河川砂防課
事業種別	砂防事業	班 名	砂防班 (tel)018-860-2518
路線名等	沼山沢川	担当課長名	河川砂防課長 高杉 英幹
箇所名	横手市大沢字沼山	担当者名	チームリーダー 金澤 和春
プランとの 関連	戦 略	防災減災・交通基盤	
	目指す姿	強靱な県土の実現と防災力の強化	
	施策の方向性	県民の生命と財産を守る安全な地域づくり	

1. 事業の概要

事業期間	H5 ～ R15（41年）		総事業費	20.3億円	国庫補助率	1／2
事業規模	砂防えん堤N=4基、溪流保全工L=1,894m、床固工N=3基					
事業の立案 に至る背景	当地区は、複数の土石流危険溪流が集中した地域にあり、保全対象として人家やJR北上線、市道、中高一貫校等の公共施設を抱えている。平成13年8月及び平成22年7月の豪雨では、流出した土砂によって唯一の避難路である市道が一時通行止めとなり、沼山地区の孤立が生じた。また、各沢では溪岸浸食が著しく、溪床には不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土砂災害が発生する恐れがある。土砂流出による地区の孤立を防ぐとともに、下流保全対象を土砂災害から守るため、砂防設備を整備するものである。					
事業目的	砂防設備の整備により、流出土砂による被害を未然に防止し、土砂災害から地域住民の生命・財産を保全し、安全・安心な地域の創出を図る。 【保全対象】 人家40戸、耕地10.1ha、橋梁6基、JR線156m、市道5,555m、中高一貫校、公民館					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			前回評価	今回評価	増減	理由等
	経費内訳	事業費	1,940,800	2,034,900	94,100	
		工事費	1,252,900	1,347,000	94,100	労務、資材単価の上昇による増
		用補費	301,700	301,700		
	財源内訳	その他	386,200	386,200		
		国庫補助	970,400	1,017,400	47,000	
		県債	873,400	915,700	42,300	
		その他	0	0	0	
	事業内容	一般財源	97,000	101,800	4,800	
			砂防えん堤工 溪流保全工 床固工 用地補償	砂防えん堤工 溪流保全工 床固工 用地補償		
事業の進捗 状況	全体計画 20.3億円 令和5年度末投資額 14.7億円 進捗率 72.4% 砂防えん堤N=2基、溪流保全工L=1,109mが完成しており、残りは砂防えん堤工N=2基、溪流保全工L=785mである。					
事業推進上 の課題	砂防えん堤工4基のうち2基の用地買収範囲について、用地取得の遅延に伴い、工事進捗に影響が生じている。					
関連する計 画等	「～大変革の時代～新秋田元気創造プラン」において、6つの重点戦略とあわせて推進する基本政策として「強靱な県土の実現と防災力の強化」が位置づけられている。					
情勢の変化 及び長期継続 の理由	砂防えん堤工4基のうち2基の用地買収範囲について、用地取得が難航してきたことによる。					
事業効果把握の手法 及び効果	指標名		土石流危険溪流に対する概成率（％）			
	指標式		対策済み溪流数／土石流危険溪流（％）			
	指標の種類		○ 成果指標 ● 業績指標		低減指標の有無	○ 有 ● 無
	目標値 a		17.2％		データ等の出典	河川砂防課調べ
	実績値 b		17.8％			
	達成率 b／a		103.4％		把握の時期	令和6年3月

前回評価結果等	☒ 選定または継続 ☐ 改善 ☐ 見直し ☐ 保留または中止
	①指摘事項
	特になし
	②指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容（特記事項）	評 価 点
必 要 性	保全対象として、人家40戸のほか、唯一の避難路となる市道や中高一貫校、JR北上線などの公共施設がある。平成13年8月や平成22年7月の豪雨では本溪流からの土砂流出により市道が通行止めとなり、沼山地区が孤立化するなどの被害が発生している。溪床には不安定土砂や流木が堆積していることから、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性が高まっており、地元からの要望は高く、対策の必要性は高い。	20点
緊 急 性	平成13年8月や平成22年7月にも豪雨による山腹崩壊が発生するなど、事業着手後においても不安定土砂が大量に発生している。今後の豪雨等により、甚大な土砂災害をもたらす恐れがあるため、早急な整備が必要である。	30点
有 効 性	砂防設備の整備により、多数の人家や各公共施設を保全することができるため、有効性が高い。	10点
効 率 性	本事業の費用対効果は3.18であり、効率性は高い。 また、残存型枠工による施工や再生骨材を使用するなど、コスト削減に対して積極的に取り組んでいる。	20点
熟 度	平成22年7月の豪雨による土砂流出などから、地元住民から事業の早期完成を熱望する声は高い。残りの用地取得についても地元の合意形成が図られており、工事の進捗が見込まれている。	14点
判 定	ランク (☒ Ⅰ ☐ Ⅱ ☐ Ⅲ)	94点
	土砂災害から人命・財産を保全するには砂防事業が最適であると判断できるため、早期の事業実施が必要である。	
総 合 評 価	☒ 継続 ☐ 改善して継続 ☐ 見直し ☐ 中止	
	事業の継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

コスト削減に努めながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

公共事業箇所評価基準

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 砂防事業

事業コード (R6－建－継－09)
箇所名 (横手市大沢字沼山)

1. 評価内訳

観 点	評価項目 細別	評価基準	配 点	評価点	摘 要
必要性	災害発生時の影響（被害想定）				
	人家戸数	20戸以上	10	10	40戸
		5戸以上19戸以下	7		
		1戸以上4戸以下	3		
		なし	0		
	公共・公益施設	以下の公共・公益施設がある 要配慮者利用施設 重要交通（緊急輸送道路、避難路、鉄道） 防災拠点（警察、消防、役場等） ライフライン施設（電力、ガス、水道等）	10	10	市道（避難路）5,555m 鉄道 156m 学校 2校
		その他の公共・公益施設がある	5		
		なし	0		
		計	20		
緊急性	災害実績				
	過去の災害発生履歴	過去の災害発生履歴あり	5	5	平成13年8月、平成22年7月
		なし	0		
	災害発生時の危険度				
	想定される流出土砂量	1,000㎡以上	10	10	67500㎡
		1,000㎡未満	5		
	想定される流出流量	20㎡以上	10	10	72㎡
		20㎡未満	5		
	荒廃面積	流域面積の10%以上	5	5	16.50%
		流域面積の10%未満	3		
	計		30	30	
有効性	関連計画への貢献				
	秋田県防災・減災・国土強靱化計画	計画に関連する事業である	5	5	
		上記以外の事業である	0		
	ソフト対策との関連性				
	土砂災害警戒区域等の指定状況	土砂災害特別警戒区域に指定	5	5	土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域の指定（H28.5.10）
		土砂災害警戒区域に指定	3		
		なし	0		
	計		10	10	
効率性	費用対効果				
	費用便益費（B／C）	1.0以上	10	10	3.18
		1.0未満	0		
	事業実施コストの削減				
	コスト削減の具体的計画	あり	5	5	残存型枠施工再生骨材使用
		なし	0		
	前回計画との比較				
	前回計画事業費からの削減	減少又は10%未満の増加	5	5	約5%増
		10%以上30%未満の増加	3		
		30%以上の増加	0		
	計		20	20	
熟 度	事業の進捗状況				
	今後の進捗見込み	課題はなく順調な進捗が見込まれる	10	6	
		課題はあるが当面の進捗に影響はない	6		
		課題があり、事業の停滞が懸念される	0		
	事業の進捗状況				
	進捗率（事業費）	8割以上完了	10	8	(R5末)14.7億円/(計画)20.3億円=72.4%
		5割以上完了	8		
		1割以上完了	5		
		1割未満	2		
	計		20	14	
合 計			100	94	

2. 判 定

ランク	判定内容	配 点	判定	摘 要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		